

# 男女共同参画の視点からの防災

事例集



【取組の概要】（市町村防災会議：市における取組）

- ・ H25年度までは防災会議に女性は1名しかいなかったが、女性市長の強いリーダーシップのもと、女性の参画拡大に向けた取組を実施。
- ・ 男女共同参画課の課長や、市内の大学、医療分野、女性消防分団等に就任を要請。
- ・ 2年間で17人の女性を登用し、女性割合は激増（1名は退職により退任）。

【任命した女性委員】

- ・ NPO法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿
- ・ 鈴鹿市監査委員事務局
- ・ 鈴鹿市男女共同参画課
- ・ (一社)鈴鹿市観光協会
- ・ 鈴鹿市民生委員児童委員協議会連合会
- ・ 鈴鹿医療科学大学 鍼灸学科
- ・ 鈴鹿大学 国際人間科学部
- ・ 鈴鹿市社会福祉協議会 地域福祉課
- ・ 鈴鹿商工会議所 女性部
- ・ (株)鈴鹿メディアパーク 社長付
- ・ 市消防団Hiまわり(女性消防分団)
- ・ 市消防団Hiまわり(女性消防分団)
- ・ 鈴鹿保健所

- 理事長
- 事務局長
- 課長
- 理事
- 副会長
- 教授
- 教授
- 課長
- 会長
- 経営企画室長
- 分団長
- 副分団長
- 所長

- ・ 鈴鹿生活学校 会長
- ・ 鈴鹿ボランティアコーディネーターズ 書記
- ・ 鈴鹿市人権擁護委員 副会長
- ・ (公社)三重県看護協会 鈴鹿地区 支部長

＜鈴鹿市防災会議に占める女性の割合＞

年 月	委員総数 (人)	女性委員の 数(人)	女性委員の 割合(%)
H26.4	38	1	2.6
H27.4	41	11	26.8
H28.2	43	17	39.5

(内閣府男女共同参画局調べ)

取組により得られた効果

- ・ 市の防災対策について女性の声を反映できる体制ができた。
- ・ 医療・看護分野における連携が深まった。
- ・ 市の実施する訓練における関係機関との連携が図れるようになった。